

アロマターゼ阻害薬と選択的エストロゲン受容体調節薬の併用状況

中島 直幸¹⁾、青木 香奈²⁾、森山 京英³⁾、片山 珠季⁴⁾、永野 悠馬⁵⁾、前田 守⁵⁾、
長谷川 佳孝⁵⁾、月岡 良太⁵⁾、森澤 あずさ⁵⁾、大石 美也⁵⁾

- 1)(株)アインファーマシーズ アイン薬局 愛大病院店
- 2)(株)アインファーマシーズ アイン薬局 高槻店
- 3)(株)アインファーマシーズ アイン薬局 三崎店
- 4)(株)アインファーマシーズ
- 5)(株)アインホールディングス

【目的】アロマターゼ阻害薬(以下、AIとする)服用時は骨粗鬆症(以下、OPとする)の発症リスクが増加するため、OP 治療薬を併用することが推奨される。選択的エストロゲン受容体調節薬(以下、SERMとする)も OP 治療薬だが、乳癌診療ガイドライン 2018 ではこれらの併用が「有害事象の増加」「AI の効果減弱」につながるとして推奨していない。そこで、AI と SERM の併用状況を調査した。

【方法】2017 年 4 月から 2020 年 10 月に当社グループが運営する保険薬局が女性から応需した処方箋 32,226,402 枚において、AI と SERM の処方動向を調査した。また、当社グループの薬局プレアポイドから、AI と SERM の併用回避事例を抽出した(アイングループ医療研究倫理審査委員会承認番号:AHD-0107)。

【結果】AI の処方応需率は、2017 年 4 月は 0.47%、2020 年 10 月は 0.51%であった。AI と SERM の併用率は、0.21%であった。また、以下の事例を確認した。バゼドキシフェンが処方された 50 歳代患者のお薬手帳から、他院でアナストロゾールが処方されていることを確認した。そこで、「バゼドキシフェンなどの SERM は AI との相互作用が懸念されるため、乳癌診療ガイドライン 2018 で推奨されていない」「ビスホスホネートやデノスマブは、AI 服用中も使用できる」と文書で処方医に情報提供した。次回受診時、バゼドキシフェンからアレンドロン酸 Na に処方変更された。

【考察】本事例では、「お薬手帳による服薬一元管理」で併用を発見し、「明確なエビデンス」「具体的な代替案」について処方医へ情報提供したことで、安全かつ効果的な治療の継続に貢献できた。同一薬局で応需した処方箋での AI と SERM の併用率はわずかであったが、かかりつけ機能による服薬一元管理を発揮して他院・他薬局での併用にも注意し、明確なエビデンスを基に医療機関へ情報提供を行うことが、外来がん化学療法で薬局薬剤師に求められる役割であると考えられる。

(第 31 回医療薬学会年会(2021 年 10 月, Web)にて発表, 一部要約)